

第4号

平成4年(1992年)3月発行

[稽古仲間を結ぶ支部報]

— △ ○ □ — 精武館通信

〒652神戸市兵庫区石井町8-2-12

(078)521-3343 道場長/横田金典

[(財)合気会神戸支部 精武館]

山端一夫さんの思い出 □特別寄稿□



植芝吉祥丸/合気道道主

昨年5月3日、山端さんの訃報に接した私は、一瞬絶句する程の衝撃を受けた。

合気道がまだ植芝の個人道場の中にだけあるような雰囲気を感じていた昭和34年頃、今の新日本証券株式会社神戸支店に勤務しておられた米持英夫氏の紹介で山端さんと相識する仲間となった事は、今でも私の記憶にはっきりと刻まれている。

其の前年より米持氏は商用で山端さんの許へ何度も足を運び、やっとお逢いする機会を得たと言う。然も其の際米持氏の人柄にすっかり惚れ込まれた山端さんは、以後三十有余年、亡くなられる迄一貫して水魚の交わりとも言われる程の交際を続けられた事は、私どもにとっても忘れ得ぬ思い出である。

当時米持氏は、神戸生田署の柔道道場をお借りして合気道の集いを開き、合気会の支部活動が続けておられた関係上、その集いに山端さんをお誘いしたと聞いている。その頃、天風会の関西役員もされ、精神面の向上に非常な関心を示しておられた山端さんは、喜んでその誘いに応じられた様である。

翌昭和34年、私は米持氏の紹介で山端さんにお逢いする機会を持つとともに、お逢いすればする程その魅力的な人間性の深さに引きづり込まれ、米持氏を通じ合気会の理事をお願いするとともに、合気道の段位を贈らせて頂いた。其の後、肝胆相照らす仲として最後迄深い交誼を頂いたわけである。

山端さんは、米持氏や私ども合気道に携わる人々との縁を大切にされ、合気会神戸支部長を引き受けられ、更にご自宅の庭に立派な専門道場もお建てになった。そうした関係もあり一時期、本部道場で熱心に稽古を続けていた内弟子、学生、青年等随分お世話になったと記憶している。

また、お亡くなりになる前迄、私どもとお逢いになるとよく当時の噂話をされたものである。今フランスで合気道の指導にあたっている田村信喜君や野呂昌道君、更に慶応大学合気道部を育てたメンバー、例えば今は亡き大平首相の令息正樹君等々のこと、その思い出は広く多様に及んでいる。

私自身も神戸で山端さんにお逢いする事が非常に楽しみで、多忙の中にも貴重な一刻をとって過ごさせて頂いた事を覚えている。

今ここに、山端さんを偲び、胸にあけられた空洞が一層深くなる思いである。誠に淋しい一言に尽きる。幸い、ご遺族の御令室様、御令息様のご了解により合気会神戸支部の道場をそのまま使わせて頂けるとお聞きしている。私どもは精武館道場生等ご縁につらなる人々と共に、山端さんの心を大切に継承し、人類社会の平和と繁栄のため懸命な努力を致し度く決意を新たにしている次第である。

山端一夫さんのご冥福を心からお祈り致します。

合気道って何んだ?

道場長・横田金典/七段

「合気道って何だ? 合気道は何の役にたつのか?」この答を求めて

先日のさる新聞に、日本石油(株)が、社員の研修プログラムに気の研究を組み込んだ、しかもそれはいわゆる最近はやりの気功法によるのではなく合気道からでた「気」の体験研修を導入することだという。もしもこんな記事が30年前に出たとすれば気の鍛練に合気道というものがあるのかとうけとる人が殆どではないだろうか。

30数年前、当時大学病院の職員をされていた田中茂穂先生が、昼休み時間に同僚の職員を相手に稽古されていた玄妙な技や動きに魅されてはじめて合気道なるものに入門したころは、合気道の存在、ましてやどんなものかなど殆ど知られてなかったと思う。従って私自身にとっても、いかにも武道らしい技に対する驚きとともに、合気道という響きがきわめて新鮮であった。

ただこちらが初心であったせいもあるだろうが、稽古は誠に荒稽古であった。ゆったりと優雅にさえ見えながら、その実容赦なく叩きつけられ、相手の受け身に合せて投げたりとか、受け身を先に取れる余裕が持てるとかいったものではなかった。

しかし何とか肩やら腰の青あざに耐え続けるうちに、多少とも技も覚えられ今度は人もあまり知らない何か特別なものに出合い学んでいるのだ、という自負と喜びを感じだした。つい稽古熱心になり、午後の講義は遅れたりさぼったり眠ったりで目立つようになる。

「お前、昼休みに何やってんだい?」

ここで少し得意げに、

「合気道を始めてねー」

「合気道? 何だいそれ」

爾来この一見単純な質問に何度悩まされたことか。最近になり合気道も新聞やらマンガにもさりげなく出るほどになったので、おかげで殊更に聞く人も少なくなったようだが、未だにこの問に一言で答える答え方をしらない。

例えば先ほどの最初の問に対し、「竹内流柔術をねー」とこたえれば、相手も妙なものをやりだしたなと思うかもしれないが

一応答えになるだろう。しかし自負が許さないし教えてもやりたい気分から、合気道と云い畳みこまれる。

「植芝翁が創設された近代武道だが柔術みたいなものだねー」

「みたいとは例えば柔道とか空手とどうちがうのか?」

「柔道のように引きつけたり足を掛けたりはしないな。また空手の突きとか蹴りも相手を傷つけるからやらない。まあ当てはあるけど」

「ぴんとかないな。何かやってみろよ。相手がこう掴みかかってくるとー」

と、手を出して来るところを軽く小手返しに取り半倒しにする。

「イテテテ。関節技を使うのかー」

「これも技の一つさ。他にもいろいろあるよ。気の動きを利用したの投げ技が多いが」「気????」

英語でもやられた。

“What do you usually do on Sundays?”

“Well, I’m trying to have the practice of AIKIDO as possible.”

“Oh! AIKIDO? What it’s like?”

“It’s like JUJUTSU, but more than that. It has many unique arts and movements which are said to be derived from other types of martial arts such as KENDO or JOJUTSU.”

“Then, do you use a stick or a bar, or do you hit or kick?”

“Not for the attack, actually most of the techniques are how to overcome the opponents when attacked by them. And the most important thing behind every technique is said to master how to make use of ‘KI’.”

“‘KI’? What’s it?”

“You will know it only through practice.”

“Really? ????”

これでは一応答えのようであるが、所詮門外漢には分かりませんよ、といなしているに過ぎず、結局どちらにももう一つの感が残ることになる。今まで何回か類似の質問を受けたが似たようなものだったように思う。

更に余談ついでに言えば、「合気道は本当に役にたつか、今までどんな役にたったか?」という質問にも歯切れのいい答えが



合気会50周年記念祝賀会に出席して 濱崎正司/六段

記念すべき祝賀会に、故山端支部長に代り横田道場長と濱崎師範が出席

平成3年11月17日(日)午後13時より、京王プラザホテル5階コンコード・ボールルームにおいて、合気会財団法人認可50周年および本部道場創建60周年記念祝賀会が開催されましたが、出席者が多くて定刻前に入室する程の盛況でした。

祝賀会には国内津々浦々、また世界の各地で指導されている師範が多数参加されました。神戸支部からは本来ならば故山端支部長が出席されるところですが、代りに横田師範と私が出席させて頂きました。

祝賀会は発起人代表、(財)合気会理事宮崎吉政氏の「今日の合気道があるのは先輩諸兄の努力の賜物である。もう一つ吉祥丸道主が古稀を迎えられたことを共にお祝いしたい」との開会の辞と、長谷川峻氏の挨拶に始まりました。

続いて合気道道主植芝吉祥丸先生から、最近の合気道の動静についてお話があった。「武の根源は愛なり。武道の鍛練とは森羅万象を正しく産み、守り、育てる神の愛の力の養成である」この考えが合気道の考えであり、この理念が正しく理解されたことが世界的に発展している理由である。しかしながらこの心を知らず、亜流とも言える動きがあるが、「真の合気道」を理解し発展させることが今大切であると、開祖植芝盛平翁の考えに話を及ぼされていました。

またトルコ共和国駐日大使ウムト・アルク氏より、合気道を通じて植芝盛平翁の「武は愛である」という哲理を知り、帰国後その精神を広めるために稽古に励んでいるとの来賓の祝辞があった。

最後に道主から、合気道の発展に貢献された3人の理事に感謝状の贈呈がありましたが、合気道の今日あるは多くの人の献身的なご努力によるものと深く心に刻んだ次第です。今回の祝賀会に出席させていただいて、今後合気道がますます発展し、10年後20年後にも同様の祝賀会が開かれるであろう事を確信しました。

追伸：神戸支部の皆様へ、合気道の発展の歴史を知るために「合気道探求」第3号の購読をお願いします。

しにくい。

「何時でも肩の力が抜け気持ちを落ち着けることができるようになった」とか、「稽古を始めて以来身体に自信が出来とても調子がよい」ということも確かに今の時世としては大きな实际的効用に違いないが、質問の意味はこんな答えのみを期待しているわけではあるまいし、稽古の動機としてそんなものだけではあるまい。

結局私共はこの2つの質問に対し、それぞれ自分なりの納得が出来るようになる為に稽古に励んでいるのではなかろうか。そして30年やってみても気持ちは似たようなものである。

難しい道といわざるを得ないが、皆さんもこの道にかかわった以上、慌てず気長にしかし真剣に、そしてお互いの上達を励まし合いながら楽しく稽古を続けようではありませんか。亡き山端支部長の大きな御恩に少しでもお応えするためにも。

加古川合気道サークルと私

加古川合気道サークル代表・西嶋正憲/三段

開祖の御導きで故郷・加古川に合気道サークルを始めることになったのは・

昨年10月10日体育の日、加古川市立武道館完成記念演武会には合気会神戸支部(一般部、少年部)の全面ご協力のもとに盛況裡に合気道の演武披露ができましたこと、紙面をかりてお礼申し上げます。

おかげさまで、その後も神戸新聞、読売新聞、加古川ミニコミ紙等に加古川合気道サークルの様子が報道紹介されて、発足後1か月で老若男女30名を超えるサークルに発展しました。この精武館通信が発行される頃には50名近くなるのではと期待しております。

サークル創設の経緯の中で知ったことですが、今から35年前愚生が一年に在学の時に、合気道開祖植芝盛平翁が我が母校、加古川東高校に立ち寄られ、わが柔道部に指導されたとのことでした。従って加古川にはその時既に開祖が道をつけておられたということでしょうか。合気会が法人認可50周年というこの記念すべき時期に、加古川に合気道サークルが誕生した事は決して偶然ではなく、必然としか考えられません。愚生には、何か大いなる力に導かれ支えられながら加古川に合気道サークルが発足することが出来たように思われます。

思えば大阪の三木田師範の道場に入門し、合気道の素晴らしいさに接して間もなく、福岡への転勤となりました。そこで九州派遣本部師範の菅沼守人師範に出会い、約5年間朝稽古(7時-8時)に通ったものでした。

福岡は日本海側の為、冬は雪も降り、寒い朝には足の感覚もなくなるような冷たい道場での稽古でした。酒屋の倉庫を改装した道場でしたが、真ん中には大きな柱があり、その柱に鉄砲突きをしての稽古もずいぶんしました。

当時は菅沼師範もまだ30代で、私とも年齢的には近いのでたいへん親しく教えて戴きました。又九州には道主もときどきおいでになりましたし、今は亡き大澤元本部道場長にも教えて戴く機会をえました。今でも福岡出張の時は稽古着を持って出かけ、

福岡の人達と旧交を暖めています。

約5年の後東京へ転勤となり、住いが大宮となりましたので、浦和道場を常稽古道場として稽古しました。福岡と違って仕事の関係やら、朝稽古がないためやらで稽古量は半減以下となってしまいました。会社の休みを利用して本部道場の土曜稽古と浦和道場、それに大宮道場等で時間をみつけて稽古しました。

神戸支部の合キチと言われていた中尾さんとも浦和道場で出会いました。当時浦和道場は本部師範の遠藤征四郎先生にご指導していただいておりますが、中尾さんが遠藤先生と一緒に浦和に来られた折、稽古中だったか稽古の後の一杯喉を潤す会ときだったか忘れましたが、お互いの関西なまりと、同じ兵庫県出身ということで大変なつかしく親しみを感じ、忘れる事の出来ない出会いとなりました。

東京では本部道場の年末特別稽古にも参加、今では教えてもらいたくも出来なくなった故大澤先生の年末年始特別稽古を受けることが出来たのも、何か開祖大先生の導きだったかも知れません。又佐々木説法で有名な佐々木師範やら、西尾昭二先生にも懇意にして戴きましたが、若手本部師範の宮本鶴蔵師範には菅沼師範の元同じ門弟として本部道場その他の道場で出会うと特別な思いで稽古をつけて戴く等、合気道を志す道友諸兄姉には申し訳ない程素晴らしい先生の教えに接する事ができました。東京での生活より約5年後大阪転勤となり、一時奈良の橿原市に居を構え、約1年半の短い期間でしたが窪田育弘師範指導の橿原道場で稽古をいたしました。このように合気道の取り持つご縁で多くの師範と道友が出来、私の人生にとって素晴らしい宝となっています。

そして4年前我が生まれ故郷、加古川の地に御先祖の導きで居をもつことができ、それを機に合気会神戸支部に所属することとなりました。

訪問初日奇しくもそこにかの有名な中尾さんがおられて、私の訪問を発見してくれました。その時だったか、愚生の夢は将来、合気道場を加古川に建てる事だと話した事があります。

その当時開祖のお膳立てよろしく加古川市が武道館設立で動いており、中尾さんの支援や我が加古川の同窓生の支援やらで、

当時加古川には合気道場が無かったにもかかわらず、体育協会会員扱いとして処遇していただき、加古川武道館開館記念演武会に演武団体として組込んで戴くことができました。そんな経緯のもとで加古川合気会の発足となりました。当日はお忙しいなかを神戸から横田先生、濱崎先生等多数の方々の応援をいただいて演武披露を行い加古川に合気道が正式に産声をあげた次第です。

本当にその節は有難う御座いました。神戸支部の人たち兄弟道友、支部道場、第二道場、明石道場、そしてその他縁有る道友の皆さん今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。

我平和武道合気道を墳墓の地に普めん

神仏の導きたもう合気道
合気漲る播磨野の朝

播磨野に白鷺舞いて合気漲る

初春に合気稽古の汗ぞ爽やか

懐かしき

我が父母の

鎮まる故郷は

開祖も来たり縁の絆

(平成4年初春 鈍光)



読売ファミリーニュース

1992年(平成4年)1月5日 日曜日 第298号



ころが醍醐味だ。争いをしない「和」の武道で、個人の気・心・体を鍛錬することが大きな目的とされ、勝ち負けを決める試合は行われない。

「競争するんじゃないし強制でもないからのんびり楽しんでます」

「以前から興味があったので入会したんですが、技が難しくて…。でも面白いので、」

「主観をしていますので、」



小さな女の子もハイこのとおり

発足は昨年の十月十日。日岡山にできた市立武道館の開館と同時に、広びろとした真新しい道場では、西島正恵さん率いる三十五名の老若男女が爽やかな汗を流している。

相手の気力を逆に利用すること、技をきめる合気道は、

「上手くなってくる」と、女性も男性を倒したり、小さな子どもが大人を投げ飛ばしたりということもあるんですよ。

と、年齢や腕力に関係なく楽しめる

唯一の発汗場所ですね(笑)。汗を流したあとはとっても気持ちいいです」

汗を拭き拭き話す笑顔がまぶしい。

六歳から六十代までの会員の中には親子、夫婦、きょうだい連れ等々の参加

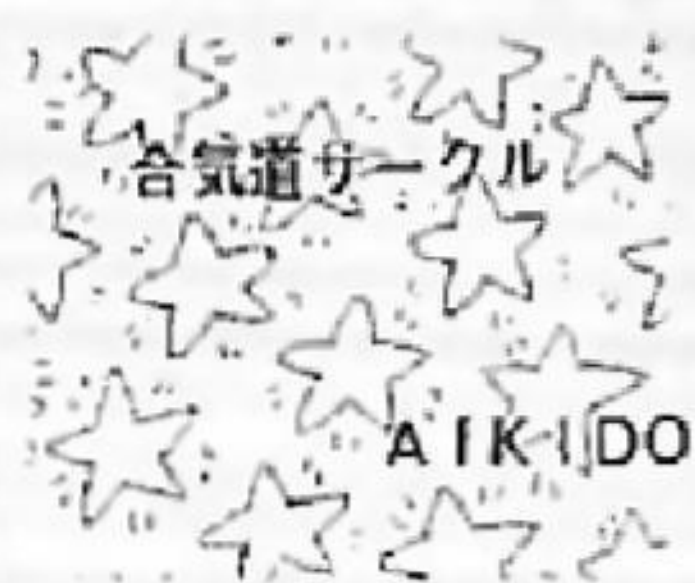
者も少なくない。

「このサークルのポイントは大人数での入会金と月会費で家族全員が練習できるというところ。せつかくの休日に家族がバラバラにならなくてすむでしょう」

温かい配慮で、道場には心地良い緊張感の中に和気あいあいとした雰囲気がある。

練習日は金、土、日で、会員は都合の良い日に参加。週三回のフル参加もOKだ。

☎0794(0)4530(西島代表)



加古川での演武会

◎竹内ゆう子

この1年一番で楽しかった加古川での演武会

合気道を始めてもう3年になります。

私はこのごろ、小学生の部だけでなく中学生の部も時々通っています。中学生の部は人数が少ないので道場が広々使えますが見通しがきくのでさぼるとすぐに見つかりてしまいます。

さて、私は10月10日、加古川の武道館に行きました。そこで、演武をするためです。すごくきれいな道場でしたが、精武館とちがって、ビニールのたたみがひいてありました。いっしょにいた田村さんが、「たたみのかすがつかないのはいいいけど、こんな所で、ひざすったらいいたいやろうなあ」といいました。私もその通りだなあと思いました。その時、中尾先生が「今は、ほとんどの道場がここみたいな、たたみになってるんやで」と言いました。どうしてかなあ、と思いました。

演武会が始まりました。私たちはわりと最初のほうだったので前のえんぎが見れませんでした。やるときは大人の人とやることになっていました。いつもとちがって、やる人が全然ちがうので何か変だったけれども演武会も無事終わり楽しかったです。

私がこの1年間で一番楽しかった思い出がこれです。これからも合気道は続けたいと、思っています。

加古川の武道館での合気道

◎田村典子

加古川の人たちも合気道に入り続けてほしいな

10月10日、加古川の武道館にいて、合気道をしました。武道館にきていた人たちは、柔道、剣道、小林寺拳法、なぎなた、空手、とかをやっている人たちでした。そのなかで一番やりたいなあと思ったのが、小林寺拳法と柔道でした。

そして、私たちが合気道をする時間がせ

まってきました。あまり、きんちょうは、しなかったけれども、大人とするのがちょっといやでした。でも、大人の人とやっても、べつにいやってほどこいでは、ありませんでした。

加古川の武道館のたたみは、ビニールだったので、うけみをして、立つときに、足をすって痛かったです。でも、中尾先生は「たたみでやっているのは、精武館の道場ぐらいしかない！」って教えてくれました。私は、ビニールのたたみより、ふつうのたたみの方が足をすってもしたくないの、ふつうのたたみの方がいいなあと思いました。

私たちが合気道をみんなの前でやっても、その合気道を見てくれた人のなかで、合気道に入る人は、いるかなあと思っています。はいつてくれる人がいたらいいなあと思っていますが、と中でやめるより、つづけてほしいと思います。

合気道は、3年間やっているけど、やっぱり今までつづけられたのは、楽しいからだと思いました。

合気道を始めて

加古川合気道サークル・宮内千恵

技は難しいけれど、皆さんが親切なので稽古が楽しみ

私が、合気道サークルのことを知ったのは「加古川広報」の記事を見たからです。

私は、中三だということもあって、部活も引退し体を動かすことがなかったので、これだ!!と思い今のサークルに入会しました。入会してまだ間がないので、すごい下手で理解しにくい所もたくさんありますが、みんながとても親切に教えてくれるので、毎回いくのがとても楽しいです。

技が手本のとおりにできなくてくやしいと思うこともあるけど、少しずつ少しずつ努力してこれからもずっと続けてがんばりたいです。

(平成3年) 11月14日 (木曜日)

言説 産 業 月

投げ技の練習をする合気道サークルの会員ら(加古川市立武道場で)



合気道サークル

28西島 (正憲代表(51)ら
(加古川市立武道館)

播磨に集う



先月発足、女性も参加 投げ技など基礎練習

「日本の伝統武術を広めよう」と西島代表の呼びかけで、市立武道館がオーブ
ンした十月十日に発足。毎
週金曜日の午後七時八時と
土、日曜日の午後三時四時
の三日間、武道場で練習し

ている。
会員は加古川、姫路、三
木市、稲美町の小学三年生
から六十四歳の会社員まで
中、高校生やOL、主婦な
ど幅広く、女性は六人が参
加している。開館記念行事
では柔道、剣道のサークル
などと一緒に演武を披露。

加古川市平荘町西山一三
三、会社員井上美和さん
(三三)は「市内で合気道の教
室があればと思っていたの
で、すぐ申し込みました。
仕事のストレスもなくなり
精神面も鍛えられました」と
話す。

九の七、市立米丘中三年宮
内千恵さん(四四)は「力を抜
くのが難しいけど、受難勉
強より楽しい。早く上達し
てたくさんの技を覚えて
い」と話している。
現在は、発足後間もない
ので正座をしながら集中心
を高める呼吸法のほか、受
け身や投げ技など基礎練習
を中心に行っている。
入会申し込み、問い合わせ
は西島代表方(電〇七九
四一、二四五三〇)へ。



(写真は'91 10/10 加古川武道館での演武風景)

神戸支部との縁

葉山町合気会代表・若林忠晴/六段

なつかしい神戸支部のみなさんへー若林先生からのレターです

精武館道場を初めて訪問したのは、昭和36年夏に遡る。当時、全国学生合気道連盟結成準備の為、古市君と二人、大阪で関西学連の幹部と打ち合せをした後、精武館道場の稽古に参加させていただいた。その春、我々の先輩である今泉さんが神戸製鋼、大平さんが神崎製紙に就職し神戸支部で稽古をされていたからであった。

その日は確か日曜日だったと記憶しているが、横田先生の御指導で道場は人が一杯溢れていた。山端先生が御自分の屋敷内に建てた道場だと聞いて、さすが神戸はすごいなと感心したことを思い出す。

大平さんとは2年後にロスアンジェルスでお逢いしたのが最後になってしまいました。昭和44年から証券会社の支店長としてロスに滞在され、二世ウィーク等の合気道演武会にも一緒に参加された米持さんが、神戸支部の設立者の1人だとその時知り、なつかしく思いました。

昭和46年、就職した製薬会社の日本支社が神戸に在り、神戸勤務となりました。さっそく精武館道場をのぞいてみると、稽古をしている人が5~6名しか居らず、私の記憶にあったあの人いきれのする道場が嘘の様な寂しさでした。その当時、横田先生が会社の仕事で大変お忙しく、月に1度か2度程しか指導されていませんでした。早速持ち前のでしゃばり根性が頭をもたげ、横田先生のいらっしゃれない土、日の稽古の指導をさせていただきました。

会員が1人でも時間通りに稽古を始めているうちに、新しい会員も1人2人と増え、古参の濱崎さん、井上さん、打越さん達は初心者の方の指導に忙しくなりました。

家内も週末に合気道ウィドー(未亡人)にされてはたまらないと、他の会員の邪魔にならないよう道場の片隅に畳2枚を敷いて、2人の娘の相手をしていました。そのうち娘達にも合気道を習わせたいと思い子供クラスを始めました。名古屋から小学校の教員である藤本さんが入会し手伝ってくれました。子供クラスもそこそこ大きくな



ったと記憶しています。

昭和51年東京へ来てから、地域社会への奉仕という形でもっぱら子供の指導を続けています。5年前、娘2人が上智大学に「英語で合気道を稽古しよう」と、同好会ソフィア合気会を設立し、以来私も課外指導員として、土曜日時間の許す限り指導に出掛けています。

アッという間に過ぎた神戸での5年間でしたが、あのなんともいえない暖かい雰囲気は、山端先生と横田道場長の名コンビが作られたものだと思います。一時は神戸支部にお世話になったものとして、これからもよろしく御指導お願いいたします。

最後になりましたが、心から山端先生の御冥福をお祈りいたします。合掌。

追伸：長女晴子、次女巴子共に今アメリカで勉強中ですが、二人は上智大学でソフィア合気会を作り、この会は現在会員50人という盛況ぶりです。会員の半分は留学生で日本の文化を、また日本人学生は話した英語を身につけようと熱心に稽古をしています。神戸の会員または知合いで上智大学へ入学された人がいれば是非ソフィア合気会を御紹介下さい。この会は日本で一つしかないクラブなので他大学の学生も入会しています。

若林忠志。プロ野球ファ
ン、とりわけ中年以上の方
でこの名を知らない人はま
ずいないだろう。法政大学
から戦前、戦後の阪神タイ
ガース、毎日オリオンズに
あつて、七色の変化球を
振って大活躍した名投手で
ある。

「私の父です。甲子園で
試合があると、いつも私を
ベンチに連れて行ってくれ
ましてね。藤村富美男さん
などにかわいがつていた
きました。オヤジは私をプ
ロ野球選手にしたかったよ
うですね」

期待にこたえようと大学
まで野球に打ち込んだ。
が、「名人のあとに名人な
し」といいます。私に
には素質がなかったんです
ね。野球は大学時代にあき
らめました」。

忠志氏がハワイ生まれだ
ったために、若林さんも米
国籍。早大卒業後二年間、米
國で兵役に就いた。除隊
後、加州大学へ。卒業
して向こうの製薬会社に入
社したが、その出会いだ
った。以後、「会社を次々
にかわり、そのたびにチャ
レンジしてきました」。

忠志氏はハワイから法政
の野球部に。助っ人。とし
て入り、阪神で監督になっ
たあと、毎日でも投手兼監
督を務めた。そんな父のチ
ャレンジ精神が、そっくり
若林さんの体と心に息づい
ているようにみえる。

いまの会社にはヘッドハ
ントされて入社した。
「目標は、日本における

わがはし だ はる

スミスクライン・
ビーチャム製薬

若林 忠晴社長



最強の外資系製薬へ`変化球`

外資系製薬企業の中で最強
の体制をつくること。その
ため昨年、「チャレンジ
21」計画を策定しました。
製品開発、営業力の強化に
全力を挙げていきます」

製品の開発は親会社の米
・スミスクライン・ベック
マンと英・ビーチャム・グ
ループの合併で強固な体制
ができた。すでに業界一多
い二重品目の薬が本社で待
機し、出番を待っているこ
う。企業としての優勢
は、なん
に勝る
るだけ
なく、薬
を通じて
患者の quality of
life の向上と実現
をはかること。

若林さんはいまセールス
マンに「二十分の三に減額
しろ」とびきを飛ばしてい
る。医師は一日に二十人程
度の製薬営業マンに会うそ
うだ。しかし、記憶に残る
のは三人程度。日本で後発
の「スミスクライン・ビー
チャム」のセールスマンが他社
と同じ営業姿勢では、その

三人の中に残るのはむずか
しい。「医師から本心に信
頼されるセールスマンをめ
ざせ。そして二十分の三の
中に入れ」というわけだ。

父親譲りのチャレンジ精神発揮



かつて若林さんは他人の
前で父の話をすることはな
かったという。野球では及
ばなかった偉大な父へのこ
のちも、そうさせていた
のかもしれない。しかし、
このインタビュでは、社
長の父親譲りのチャレンジ
精神が、父譲りの七色の変
化球。ならぬどんな投法
の「スミスクライン・ビー
チャム」のセールスマンが他
社と同じ営業姿勢では、その



取材・構成
館澤 貢次



一家そろって合気道。親子夫人
(左端)、2人の娘さんと

●私の履歴書

生年月日 昭和十四年
一月五日、五十二歳。
出生地 兵庫県西宮市
甲子園六番町。
国籍 米国。
生い立ち 七色の変
化球。で一世を風靡した元
プロ野球選手(阪神、毎日
監督)の父・若林忠志さん
(昭和四十年三月死去)と
母・房さん(元二人。兄
一人、姉二人、妹一人)。
「父は仕事の関係で留守
がちで、母は何事につけて
も敏しかった。当時のプロ
野球選手は今と違って下サ
回りのもの。夜行列車の
床に新聞を敷いて寝ながら
移動した時代です。特殊な
職業と見る人が多く、たか
ら母はなおさら行儀作法に
厳しく、買ひ食いには絶対
許してもらえなかった」

父は放任主義、厳しかった母

▲会社概要

前身は一九七七年設立の
米製薬大手・スミスクライ
ン・ベックマンと福沢薬品
工業の合併会社、スミスク
ライン・福沢。八九年にス
ミスクラインと英・ビーチ
ャム・グループが対等合併
したため、九〇年一月に日
本・スミスクライン・ビー
チャム製薬(株)と改称した。
本社、東京・港区三軒
茶屋。資本金、三億五千万
円。従業員、九百五十人。
営業所、全国に約六十カ所。
主要製品、抗がん剤「タ
グメット」、高血圧薬「タ
グメット」、高血圧薬「タ
グメット」。

▲人生の師

人間の生き方を教えてく
ださった思想家であり、実
践者の中村天来先生。

▲読書

●愛読書 『富田武蔵』
(吉川英治著)
●最近読んでよかった本
『運命を創る』(安岡正
信著)
●座右の銘 「正義を
守る」(合気道の言葉)

▲家族

●家族構成 親子夫人
(左端)、2人の娘さんと

●自己分析

●趣味、嗜好

●合気道で健康、女房の着せかえ人形

遠藤征四郎先生

中尾眞吾/四段

15年前の若武者姿に惚れ、技に魅せられ、言葉に引かれて

昭和51年秋、遠藤先生34才、私は20代、初めての出会いだ。絵に描いた様なええ男、正に「若武者登場!」だった。

木刀を持ち、袴の裾をまくり上げ、汗をボタボタと落としながら、右へ左への大熱演武。教えに見えられたのか、ご自分の稽古に来ておられたのか分からない……。

「坐る、立つ、歩く、^{かぐ}廻る。合気道は、立ち居振る舞い、それが基本」

プロレスラーの様な先生の身体からは想像のできない、柔らかな身のこなしに、なんとも言えない不思議な思いを抱いたものだった。この動きは何だ。これは嘘だ。こんなゴツツイ人が、こんなにもしなやかに動き回れるなんて……。このショックでこの後、2度ほど遠藤先生の稽古をサボッタものだった。

7-8年前、初めて東京の本部道場に行った時のこと、喜び勇んで稽古に臨んだものの、自分の技量の粗末さを多くの人によって思い知らされた。自分自身がはがゆく、寂しく、情けなく……。こん畜生!で乗った帰りの新幹線-飲んだビールは特別に苦かったなア。私達と同じ様に合気道を楽しんでいる人達なのに、格が違う、桁が違う、熱心さが違う、と愕然としたのだった。しみじみ先生の言葉を思い出す。

「田舎の3年、都の昼寝」

又ある稽古の日、後取りの技の時に、相手が思いっきり腕を攻めてきたので、それ以上の力で相手を潰そうと、^懸足掻きをしていると、先生は、

「自分の腕だけど、相手のモノですヨ。相手の身体だけど、自分のものですヨ」

そして去年の暮、大阪での講習会。カチカチのゴチゴチの、大阪近辺の合気道愛好家が200人弱集った折、

「下手が下手をするから、下手が余計下手になる」

それには思わず大笑い、そして反省。

この15年ほどの間に色々な先生の言葉に接し、事ある毎にそれらを反芻している。

そろそろ師範も50に手が届く年齢になられ「若武者」とは言い難い昨今の容貌だ。が、魅力溢れる男の顔には違いない。真ッ正直な人柄、スーッと歩く美しい後姿、そして何十トンもの空気の塊が、頭上からズドンと落ちてくる様な、凄まじい技の数々……。

これからも先生にお会いする度に、合気道の素晴らしさを思い、人生の幸せを感じ、遊びの時間が豊かに過ぎていく事を望んでいる。

我思う

河元正勝/三段

仕事だけの毎日……武道としての合気道に励む充実したこの頃

私が合気道を始める以前は、毎日が仕事で始まり仕事で終わるという繰り返りで、空虚さを感じておりました。機するところが有り、合気道へ入門致しましたところ、自分が思っていた以上に奥が深く、じつに魅力的であり、今に至っています。よき師、よき仲間恵まれ、この度三段を頂きました。これも日頃相手をして頂く皆様の御陰と感謝しております。

合気道をスポーツとして取り組むか、又は武道として取り組むか、人それぞれの気持ちがあるでしょうが、私は武道として考えております。どんな相手に対しても、その技に対処できるように、日々鍛練を怠りなく邁進したいと思っております。

まだまだ未熟ですので、いつも気を引き締め、相手と一体となるべく、また気とは何かを追及すべく、初心を忘れず、なお一層稽古に励んで参りたいと思っております。

合気つれづれ

去舟/三段

稽古のつれづれに思うこと・そして三敬合気道

一、無題

武道や、はたまた碁、将棋のたぐいにしても、3級4級の者には自分より遙かに上の、六段七段という高段者の実力は、分りようがない。

分るのはただ自分より上手らしいと云う事だけで、その差や距離には盲目なのだ。

二、“三敬合気道”

私の出身校、早稲田実業学校では校訓として、三敬主義と去華就実がある。

敬うとは相手を尊んで（大切に）、礼をつくすと広辞苑にあります。そして三つ敬うとは、他を敬い、己を敬い、事物を敬うとなります。

他を敬うとは、他人を自分の様にという事になります。他人を敬うということは大変むづかしいことです。通常の善なる人の場合は問題ありませんが、善でない人をどう敬うかが問題です。たとえば盗人がいるとすると、盗んだ事実よりその前のなぜ盗む行為になったか、とその背景にまで思いをめぐらし善の心で接するという事です。

己を敬うとは自分を大切にすることです。世の中の難事に当たっても常に前向きに考え引込み思案にならないということです。事物を敬うということは天地宇宙の全てを大切にということになりますか。

手近に合気道の用具、道場の掃除等のことから、稽古着等は何時も清潔にということです。稽古の際には相手の動作、態度（礼儀正しいか）などをよく見て、相手に合せて稽古出来ればよいと思います。上手な人、まだ初心者の人等よく見極めて稽古出来れば良いと思います。

合気道の修行は「正勝吾勝」と云われます。正しき理に於いて勝ち、我に勝つこととしています。他人に勝つ前に自分に勝ち、正しき理を行って己に勝てれば、天地より与えられた使命を完遂できる自分自身を作り上げることが出来る、とあります。

武士道としての合気道

土田剛司/初段

失われた日本人の魂を求めて・・・

月日の経つのは早いもので、私が初めて合気道の門を叩いてから六年が経った。幼小の頃に小児喘息を患って以来、青年になって完治する迄、病弱で、運動には絶対の劣等感を持っていた私も、合気道のおかげもあり、心身ともに今迄にない充実した日々を送ることができ本当に感謝している。

合気道の効用として、氣力・体力がつくことというのはもちろんであるが、私の場合、いささか古風な考えかもしれないが、日本武道を練成している一人の武士である、という気構えを養う事ができ、そのせいか、以前に比べて、精神的にも強くなったように思う。

ところで、今日の我が国、物質的繁栄の極に達した現代日本には、何かが欠けているように思えてならない。私はそれは、日本人としてのアイデンティティではないかと考えている。適当な言葉が分らないが、大和魂が、その発露としての精神が方向を失っているように感じるのである。

かつて、資本主義的生産方法の先駆を行き、世界を股にかけて活躍したイギリス商人達が、その公正な商法で絶対の信頼を獲得していったその背景には、ジェントルマンシップが歴然として存在していた。そして、このジェントルマンシップは実に、中世ヨーロッパの騎士道精神の昇華されたものだったのである。

私は今日の日本が失った精神、のモデルをここに観ることができるよう思う、と言うのは、日本には西洋の騎士道に勝るとも劣らない武士道があったことによる。（武士道についての詳細は新渡戸稲造著「武士道」を読んで頂ければ有難く思います）

そして、その武士道精神の現代的に洗練され昇華された新たなものを支えとして、日本は諸外国に尊敬され得る国になれるのではないかと考えている。

ところで、まさしく合気道が楽しみながら体育になり、自然な武（士）道精神涵養の方法ではなかろうかと一人納得しつつ、

皆様の中で変らず練習できることを一生の幸せと感じ、何があっても合気道は終生の伴侶として守っていきたいと思っている今日です。

知らぬ間に敷かれた合気道へのレール

廖 学誠/初段

それはある居酒屋でたくみに仕込まれたワナだったのだ

昭和62年冬のある寒い夜(あたりまえ)居酒屋で主人と客が世間話をしているうちに、武道の話になる。主人は合気道をやっていると言ひ、一方客は空手をやっていると言ひ。色々話している内に客の方が合気道に興味を抱き、ちょっとやってみたいなと思ったが、空手もやめたくないし、ひまもそんなにない。それではと思ひ付いたのが、何時もひまそうにしている亭主にやらせ、彼から習えばいいという自分勝手な作戦です。そろそろ登場人物の察しがついてきたと思ひます。居酒屋は灘屋、主人は中尾さん、客は私の家内、そして何時もひまそうにしている亭主が私です。

その夜、帰ってきた家内は私に、「合気道やってみいへん。水曜日の昼休み、中尾先生が道場で待ってるから、一回見学してきたら?」と言った。合気道とはどういうものなのかも知らなかった私は、ただ生返事をし、やり過ごそうとしたが、「先生が道場で待ってるから」という言葉が気になり、待ってくれてるんやったら行かな悪いなあ、と変な生真面目さが出て、敷かれたレールに乗ってしまいました。

その頃私は自転車と水泳に凝り、朝は自転車・昼休みはプールへ泳ぎに行くという日々、いつも一人でただ黙々とマイペース。あまり相手に合わせながらやるという事に慣れていなかったのも、初めての稽古の時はただ言われるまま、何も考えずあつというまに一時間が過ぎ、筋肉痛だけが残し、「合気道って何やる?」という疑問に対する答は「さあー、何かな?」という風に、さらに奥深い疑問となりました。やめるにしても自分が何をしていたのか、人に説明出来る位でないと、痛い目にあつたのが無駄になるのは悔しいしという不健康な考え

からしばらく続けることにしました。

週一回水曜日の昼休み、午前の仕事が終わると大慌てで自転車に飛び乗り、一目散に道場へ行きます。当初は道衣もなくトレーニングウェアでドタバタ。受け身をすれば身体はどこかが痛み、いつも顔がしかめっつらになっていました。

後受け身だけのときは、「痛いなあ!」と思うだけですんでいたのですが、前受け身ではそれだけではすまない。いままで前に転がるなんていうのは、小学校・中学校の体育の時間にやった前転くらいで、片腕で身体を支えながら前に回るといふ、言葉で言うといたって簡単なことが、なかなか怖くて出来ませんでした。でもぐだぐだ考えていてもしょうがないので、思い切ってやってみると、案外簡単に出来る??? そんな甘くはなく、背中からドスン・・・息が出来ない。

「年いってなんでこんな痛い目にあうんやろ?もうやめろ!」といつも思いながら約半年後。水曜日の昼の稽古は普段は2~4人でやっていたのですが、その日は東京から山嶋さんが来られたというのと、祝日が重なりその日は道場いっぱいの人で、稽古内容も目新しいことが多く、何かしら今まで乗らされていた合気道というレールに、これからは自分の操縦で乗ろうという気持ちになりました。

孫と合気道をやりたい

曾川 治/初段

2才の孫と一緒に稽古できる日まで(!)細く長く続けていきたい

めっきり寒くなり稽古もつらくなる頃となりました(実は道着に着替える時だけ)が、常に楽しく稽古をしています。

私は孫と一緒に合気道の稽古が出来る事を期待しております。ちなみに孫は2才です。その日が来るまで、細く長く続けて行きたいと思っている次第です。

AIKIDO

LINDA WHEELAN

世界の人々の相互理解・コミュニケーションの手段としての合気道の可能性

I started doing Aikido in may, after I had been in Japan for 3 months. I was interested in AIKIDO before I came to Japan. Even in Tasmania there are 6 or 7 Aikido clubs. I wanted to be able to continue Aikido afte I returned to Australia, so I chose this club because it has a similer style to Hombu dojo. This is the same style which is common in Australia.

Anywhere, before I started Aikido, I didn't really have a good idea about what it was. It has taken me a long time to get used to even a few basic idea. Each movement takes such a long time and so much concentration to do learn, and unlike Karate or other martial arts, there seems to be no limit to the bariety or movement and combination. It is also very difficult for me to remember what they are called. I'm sure it's sometimes difficult for the teacher to understand me and vice versa. It's sometimes frustrating not to be able to communicate clearly, to ask questions and understand.

However, I like the basic idea; that Aikido is "The harmonizing of spirit." I feel that in doing Aikido people are trying to communicate with each other. In order to communicate in Aikido, language is not the most necessary element; for me the most important element is trust; trusting someone else to direct you, and in return, having them trust you. For me Aikido is a way to exchange this trust; it's a very important way to communicate.

I hope to continue Aikido for a long time. I'd like to extend the ideas or trust, mutual understanding and peace into my own life, and into my relationships with people around me. I think

people everywhere in the world need to make a bigger effort to communicate. Aikido can help us all understand each other, and so it is a very valuable thing.

Finally, I'd like to thank everyone who has helped me for thier patience and efforts. They are very much appreciated. I hope to see you all next year.

訳:

来日して3ヵ月たった昨年の5月から稽古を始めましたが、実は日本に来る前から合気道には興味を持っていました。出身地タスマニア州にも6つか7つの合気道クラブがありますが、私は帰ってから合気道を続けたいので、オーストラリアで一般的な本部道場スタイルと同じであるこのクラブ(道場)を選びました。

合気道を始める前まで、それが一体どんなものであるのか、本当のところよく分っていませんでした。合気道を始めてみても、その基本的な考えについてほんの少し理解するにも長い時間がかかりました。それぞれの動きについても同様で、その修得には大変な集中力を必要とします。空手や他の武道と違って、動きの変化とその組み合わせには限りが無いように思えますし、それらの技がどのように呼ばれていたか思い出すのも、私にとってはたいへん難しいことです。先生が私に何か説明しようとするとき、またその逆のとき、難しさを感じることも多々在ります。何か質問しようとしてうまく伝えられないと、フラストレーションを感じてしまいます。

こんなことがあっても、私は「魂の調和(気を合わせること)」という合気道の基本的な考え方が好きです。私は、合気道を稽古する人々は互いに、心を通わせようとしているんじゃないかと思っています。合気道におけるコミュニケーションには言葉は第一番目の要素ではなく、信頼、つまり直接関係の無い誰かを信頼し、結果としてその人から信頼されること、が一番大切なのではないかと思います。私には合気道はこの信頼、つまりコミュニケートする上での一番大切なこと、を交わし合うひとつの方法ではないかと思っています。

私はずっと合気道を続けていきたいと思

っています。そして信頼、相互理解、平和という考え方を私自身の人生、さらには私を取り巻く人々との関係にも広げていきたいのです。世界中どこにおいても、人々はコミュニケーションについてより大きな努力をする様求められています。合気道は我々皆の相互理解に大きな助けになり得る、とても貴重な存在であると思います。

最後に、忍耐と努力をもって私を援助して下さった全ての方に厚く御礼申し上げます。今年も皆様方に御会いできることを願っています。

合宿へ行こう！

喜多恵美

ユタツ虫が参加した合宿で初めて知った合気道の楽しさ

「合宿に行こう！」と書いたのはその2日前の晩のことだった。「寒い」「雨が降っている」「お腹がすいたから草帰ろ」と自分に言い訳しながらしばらくずるずる稽古を休んでいたのだが、久し振りに稽古に出たら急にヤル気に目醒めてしまったのである。

当日は早目に着いてしまったので宿舎のロビーで待っているとメンバーの方が次々と到着、若い人からかなり年配の方まで、やや女性は少なかったがバラエティーに富んでいる。それにしても、ほとんど私の知らない人が多いし（私は内弁慶なのだ）、皆さん上手そうに見える。（実際そうだったが）最初の意気込みは吹き飛んでしまい「やっぱり来んかったらよかった」と早くも稽古の始まる前から後悔する始末。

着替えて道場へ。初めてみる遠藤先生の演武である。厳しい動きの中に舞いのような美しさがある。自然と身がひきしまる思いがした。いよいよ稽古が始まる。

「天地投げ」あ、私だってできる、と思いきや自分が取りの番になると「あれれ？こんなんじゃない！？」そこで相手の方に教えて頂くことになるのだが、何度もがんばってみてもなかなか出来ない。私はかなりの運動オンチらしい、ということを痛切に感じた。初日の大半を濱崎さんが相手して下さったが、余りにも下手な動きをする

私を放っておけなかったためだろうか・・・それでも投げたり投げられたりしているうちに下手な者なりにだんだん合気道が面白くなってくる。合気道を8月に始めたけれど、今回の合宿に参加して初めて楽しさがわかりかけてきたかな、という感じである。

来年は稽古の回数を増やそう、楽しく合気道をしよう、と思う。しかし私はたいへん寒がり屋で冬場はコタツなしでは生活できない人間なのだ。寒さに負けてしまいそう、なんて意志の弱い私。何を言ってるんだ私は、こんなことじゃあいけない！

皆様これからもよろしくお願いします。

かたつむりの歩みで

海田久子

稽古の後のすがすがしさに引かれて夫婦で歩むゆっくり合気道

「合気道は年をとってからもできる」というのを鶴呑みにして、入門してから2年になります。受身すら神わざに思っていた私でしたから、しばらくは足腰が痛みました。また、小中学生の技のリズミカルなことや、頭の柔らかさにふれるにつれ、もう私たちがずっと昔においてきてしまったものだと思えて、稽古中情けなくなる時もありました。それでも、道場に行くのを楽しみにし、今まで続けてきたのは、村上先生や、明石道場の小久保先生の、ていねいで、根気強い指導があったからだと思います。

なにしろ、50才前後に始めた私達夫婦の覚えの悪いこと！ぎこちないこと！天下一品ですから・・・それにしても、稽古の終わった後のすがすがしさは何ともいいがたいものです。これは、他のスポーツの比ではないでしょう。

これからも、かたつむりのようにのろのろとした歩みで、いらいらするかもしれませんが、各道場の皆さん、よろしく御指導をお願いします。

合気道をしていて

◎菅原久志

少年部の歩みとオイラの意見を聞いてくれ!!

ぼくが合気道の道場に来た時は、今の数よりもっと人が居たと思うけど、それは気のせいなのかな? その人達はどこに行ったのだろうか? と、このごろ疑問に思っている。

合気道で一番厳しかったのが、大垣という人物だった。その人物は、やたらと厳しかったので合気道がいやになった時もあったけど、ぼくはめげずに通い続けた。この根気をほめてくれ!! しかしこの前、大垣という人物がジュースをみんなにおごってくれたので、ぼくは「いいやつだったんだなあ」と思った。こんなぼくは単純なのだろうか・・・。

今ではぼくも道場になじんで、気軽に先生とも話せるようになっていし、たのしいと思っている。ぼくが合気道に通ってから8年半にもなるけど、今よりもっと上手になって、みんなに教えられるようになりたいと思う。その時をたのしみにしておきなさい!!

中尾先生と村上先生のちがい・Ⅳ

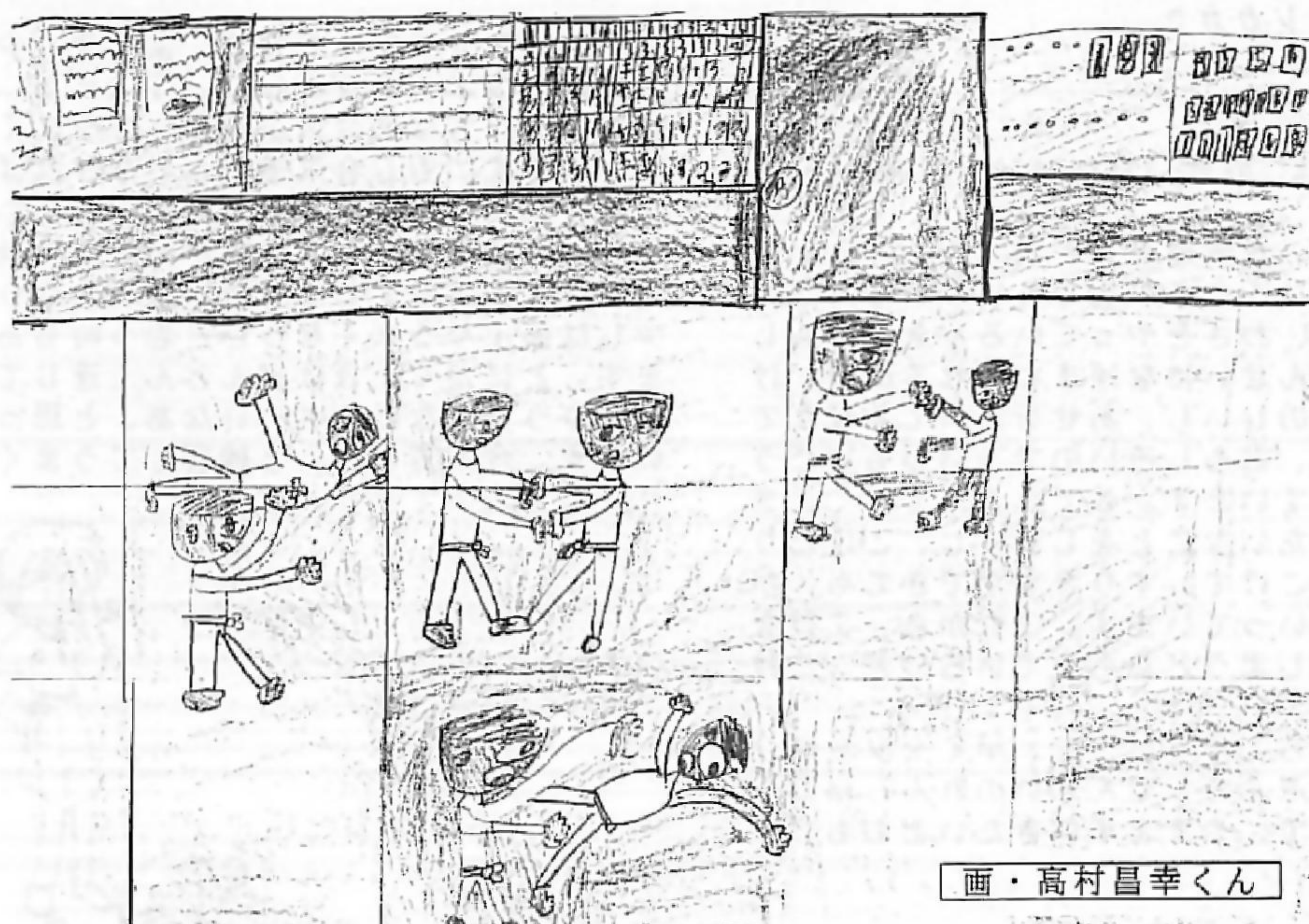
◎竹内亮介

読者が待ちに待った(!?) 特望のシリーズ第4弾、佐治先生も新登場!

中尾先生と村上先生のちがいは、中尾先生と村上先生に同じ攻撃しても、だいぶちがう。中尾先生は「なんじゃこりゃ、全然技が効いとらんぞ」と言うが、村上先生の場合は、「よう技が効いとる」と言う。またおこる場合は「こらっ、早くけいこをせんかっ」と、中尾先生は言う。しかし村上先生は「ほら、けいこをして」と言う。

また、佐治先生と中尾先生のちがいは、最初、佐治先生のことには知らなかったの、中尾先生が一番こわかった。でも後の方になってきたら、佐治先生がだんだんこわくなってきた。

でも、やっぱり一番こわいのは中尾先生で、次に佐治先生で、最後に村上先生だ。レベルで表したら、中尾先生が15だとしたら、佐治先生が11ぐらいで、村上先生が1だ。やっぱり村上先生はやさしかった。



画・高村昌幸くん

合きのこと

◎高村昌幸

ぼくの好きな技は一きようと天地なげと二きようと十字なげと・・・

ぼくは合き道が大好きです。合き道をやっていると、友だちもできて、楽しいです。ぼくは、合き道をやっているうちに、合き道のわががすきになってきて、そのわががやりたくなることがあります。でもすきになるわがは、こしなげ、一きよとかを、すきになります。でも、ときどきやり方をまちがえてしまいます。そしてぼくは、こしなげ、一きよのほかに、天地なげやら、いろいろまちがえます。天地なげのまちがえる所は、手の場所をかえる所や、足をまちがえます。でも、ちょっとすきなわがもあります。そのわがは、二きよやら、十字なげとか、いろいろがちょっとすきなわがです。

ぼくはこれからも合きにいて、友だちをふやしてわがの名前や、やりかたをおぼえて、そしてがんばって、そのおぼえたわがを、大すきになりたいです。

合気道とタタミ

◎内田哲平

わがだけじゃなく、せんせいになげられるのもタタミをひくのもおもしろい

ぼくは、合気道のわががおもしろいし、タタミをひくのもおもしろい。いろんな人がいるし、わがをやっているときもおもしろい。せんせいになげまわされるのも、けっこうたのしいし、あせをかいであばれているから、おもしろいので、いつもいこうとおもっています。じてんしゃでいくとき、レースみたいなことをしますし、こけたりします。こけて、すりきずができて、がんばっていつています。これから、こけないようにしようとおもっているけど、こけてしまう。

これから、早くいて、早くタタミをひいて、あそんで、せんせいのれんしゅうもがんばって、やすまじいきたいとおもいます。

ヘタだけどがんばるぞ

◎内田 文

合気道はヘタだけ大好き、友だちにじまんしています

わたしは合気道はヘタだけど、いっしょうけんめいがんばっています。合気道はとってもたのしいです。みんな元気があって楽しいです。

いろいろなわがをおぼえて、力もつよくなってとってもためになります。これからはできるだけがんばりたいと思います。今年は何回も休んだけどこれからいっしょうけんめいがんばるつもりです。

私は合気道を習っていることを友だちにじまんしています。いつも友だちはうらやましがります。本当に合気道ってたのしいな、わたしは大好きです。

すこしうまくなった

◎内田阿蘇彦

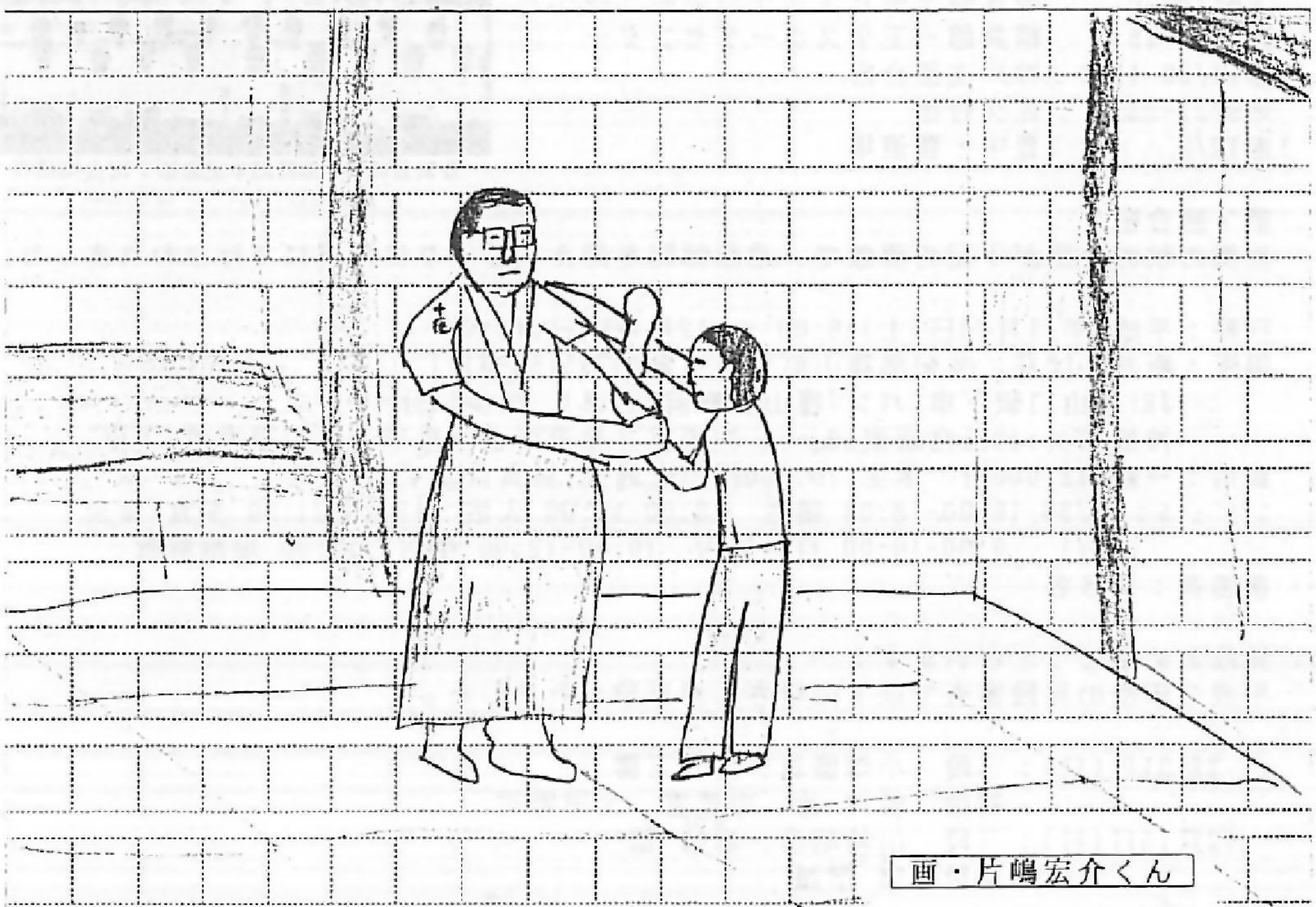
もし合気道をやっていなければもっと太っていたかもしれないなあ

合気道をやり始めて3年。ようやく少し合気道がうまくなりました。今はまだ、8級だけど、もっと合気道をやってうまくなりたいです。もし合気道をしてなければ今のぼくはとても太っていたかもしれない。けれど合気道をやっているからこそ合気道の友達や先生と楽しくできるようになり、少しは前よりうまくなったと思う時もあります。とにかく、今はどんどん上達して先生よりうまくなったらいいなあ、と思っています。合気道をもっと練習してうまくなりたいと思っています。



平成3年5月2日、山端一夫支部長が亡くなられ、我々会員一同深い哀しみにおそわれています。支部創立より精武館館長、合気会神戸支部長として神戸支部にたいしてそそがれた御厚情を我々は決して忘れることはできません。心よりご冥福をお祈りいたします。

- 何から何まで故山端支部長には甘えっぱなし。今何を、どうすればいいのかわらないがこの「精武館合気道」を一回一回楽しむ事のみを念頭に今日も稽古をして行こうと思う。(中尾眞吾)
- 実は20年精武館にお世話になりながら、親しくお話しする機会が有りませんでした。合掌。(小久保宏)
- 直接お目にかかったことはありませんが、生前大変お世話になりました。慎んでご冥福をお祈りいたします。(小坂君子)
- 故山端支部長には一度だけ道場の横の路上でお目にかかりました。「あ、この方の御好意で私たちは稽古ができるのだ！」そして今、亡くなられた後も奥様と息子さんの一誠さんが生前通り道場を使わせて下さり何とお礼申し上げてよいか・・・有難うございます。(中尾明子)
- 私は一面識も有りませんが心の広い豊かな人だと思います。(曾川治)



画・片嶋宏介くん

みんなの伝言板です **精武館** メッセージ待ってます!

- ◆若林忠晴さん：精武館通信を見せていただき、大変な御発展に心から御祝いを申し上げます。昔からの会員が頑張っているのも神戸支部の強みだと思います。横田先生をはじめ会員の皆様によりしくお伝え下さい。
- 中尾眞吾さん：「子供のクラス」を見ていて思うこと、ひとつ。今の子カワイソーやな。勉強優先で合気道をやめていく。教えている大人もカワイソー！よく遊びよく学べと思う。
- ◆小久保宏さん：精武館道場を何時までも使用させて頂けることを希望します。
- 小坂君子さん：平成3年職場が六甲の方になり、道場と反対方向になったのがチョットつらいです。
- ◆山部佳子さん：今年は就職活動の年なんで、いい就職先がありましたらよろしくおねがいします。
- 中尾明子さん：加古川の演武会に子供たちと往復を共にし楽しかった。皆で年に一度ぐらいハイキング(菊水山)はいかがですか。

事務局だより

1. 平成3年度 遠藤師範 神戸支部御指導スケジュール

- ①1/26-27 精武館-王子スポーツセンター
- ②4/20-21 精武館-甲南大学(六甲アイランド)
- ③6/29-30 精武館-県立スポーツ会館(西代)
- ④9/14-15 精武館-王子スポーツセンター
- ⑤11/30-12/1 神戸支部合宿
- ※9/21-23 佐久合宿
- ※12/8 豊中・響道場



合気会神戸支部32周年記念第7回合宿稽古

神戸市灘区山手町2-1-1 王子スポーツセンター 平成4年11月30日

2. 第7回合宿

恒例の秋の合宿が下記の要領で、遠藤師範を迎え久しぶりに丹波にて行なわれました。

日時：平成3年11月30日(土)16:00 ~ 12月1日(日)12:00

場所：新たんば荘 多紀郡篠山町郡家 電話(0795)52-3111

JR:篠山口駅下車、バス「篠山警察前」下車し、徒歩10分

神姫バス:JR三宮駅東50メートル 神姫バス発着所より乗車、「篠山警察前」下車

費用：一般 12,000円 学生 10,000円 (交通費、昼食含まず)

スケジュール：11/30 16:00-18:00 稽古 18:00-19:00 入浴 19:00-21:00 夕食、宴会

12/1 9:00-10:00 自由稽古 10:00-12:00 稽古 12:00 現地解散

参加者：43名

3. 昇段おめでとうございます!

平成3年度の昇段審査で以下の皆さんが昇段されました。

3月31日(日)：三段 小畑盛義、河元正勝

初段 曾川 治、中篤憲、土田剛司

12月15日(日)：三段 山崎昭彦、麻植 徳

初段 廖 学誠

合気道について(入門を希望される方へのご案内)

合気道は昭和の初め今から約67年前に、不世出の武道家といわれた植芝盛平によって創始され、戦後一般にも急速に普及されてきた武道です。植芝盛平開祖を道主として昭和23年に組織されたのが財団法人・合気会で、現在は子息である植芝吉祥丸現道主に引き継がれています。

(財)合気会は国内に300以上の支部、道場と世界約50ヶ国の支部に、約120万人の登録者を持つ、合気道の正統かつ最大の組織です。

精武館はこの合気会の神戸支部道場で、今年で創立33年の伝統を持ち、自由で明るい気風を特色としています。

合気道について創始者の植芝盛平は次のように述べています。

- ・合気とは、敵と闘い、敵を破る術ではない。世界を和合させ、人類を一家たらしめる道である。合気道の極意は、己れを宇宙の動きと調和させ、己れを宇宙そのものと一致させる事にある。合気道の極意を会得したものは、宇宙がその腹中にあり「我は即ち宇宙」なのである。
- ・合気とは「愛」であり、天地の大愛を心として、あらゆるものを愛護することを自己の使命としなければならない。真の武は自己に打ち克ち、敵の闘う心をなくす・・・いや、敵そのものをなくしてしまう絶対的な自己完成への道なのです。
- ・合気道においては常に相手がなく、相手があっても、それは自分と一体となっていて、自在に動かせる相手なのです。

合気道練習上の心得

合気道開祖・植芝盛平

- 一、合気道は一撃克く死命を制するものなるを以て 練習に際しては指導者の教示を守り 徒に力を競ふべからず
- 二、合気道は一を以て万に当るの道なれば 常に前方のみならず四方八方に対せる心掛けを以て練磨するを要す
- 三、練習は常に愉快に実施するを要す
- 四、指導者の教導は僅かに其の一端を教ふるに過ぎず 之が活用の妙は自己の不断の練習に依り始めて体得し得るものとす
- 五、日々の練習に際しては先ず体の変化より始め 逐次強度を高め身体に無理を生ぜしめざるを要す 然る時は如何なる老人と雖も身体に故障を生ずる事なく 愉快に練習を続け 鍛練の目的を達する事を得べし
- 六、合気道は心身を鍛練し至誠の人を作るを目的とし 又技は悉く秘伝なるを以て 徒に他人に公開し或いは市井無頼の徒の悪用を避くべし

以上

編集後記：今回の精武館通信は道主の特別寄稿を頂き、故山端支部長の追悼号とすることができました。我々会員は支部長の逝去というショックを乗り越え、なお一層団結し支部を盛り立てていかねばと思う次第です。

神戸支部30周年を記念して発刊した本紙も、どうにか4号までこぎつけました。支部会員および支部に関わりをもった人達との間のコミュニケーションの場として少しは役に立てたのではないかと思います。

ただ本紙も少しマンネリ化してきたように思いますので、今後は年1回ということではなく不定期にしたいと思います。その時は御協力を御願います。

〈精武館通信編集グループ-中尾、小久保、廖、和田(越)、和田(正)・編集/文責〉

合気会神戸支部および関連道場案内

(財)合気会神戸支部・精武館

所在地:〒652 神戸市兵庫区石井町8-2-12
☎(078)521-3343 山端家

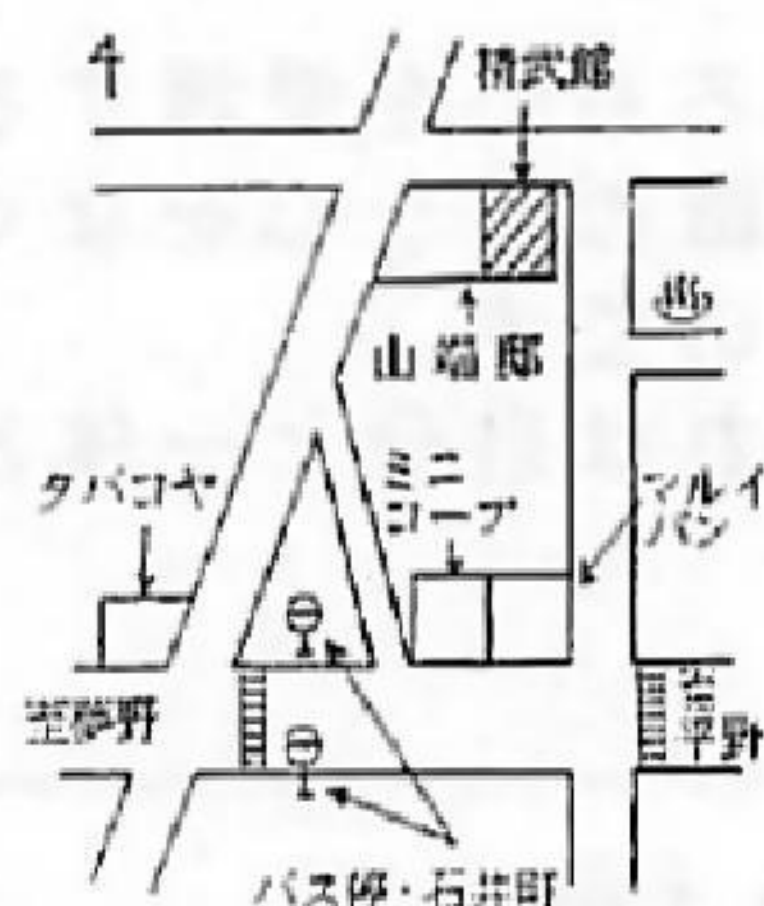
交通:JR神戸駅より神戸市バス⑦系統「三宮」行きに乗車(約10分)、「石井町」下車

道場長:横田金典

稽古:[一般クラス] 火 18:30-20:00
土 18:30-20:00
日 10:30-12:00
[子供クラス] 土 16:15-17:15(小学生)
土 17:30-18:00(中学生)

入会金:2,000円

月会費:一般クラス 2,000円(スポーツ保険含む)
子供クラス 1,000円(//)



精武館第二道場(中尾道場)

所在地:〒650神戸市中央区楠町1-4-2
☎(078)382-1659

交通:JR神戸駅または阪神・西元町駅北へ宇治川商店街 藤内商店の西側すぐ
代表者:中尾眞吾 ☎341-3980/341-6395(店)

稽古:月 18:45-20:15
火 7:00- 8:00
水 7:00- 8:00 18:00-19:30
木 7:00- 8:00
金 18:45-20:15
土 10:00-11:30

入会金:不要

会費:10,000円/5ヶ月
5,000円/ // (神戸支部会員)



明石道場(大蔵コミセン・合気道サークル)

所在地:明石市西朝霧丘4-7 大蔵中学内
大蔵コミセン 1階

☎(078)912-3620

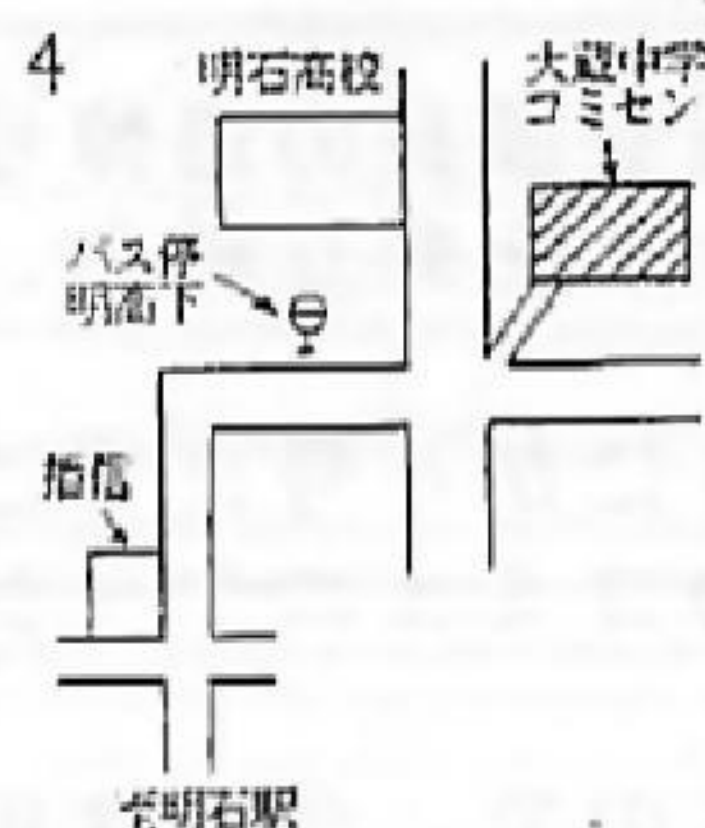
交通:JR明石駅東口ステーションデパート前より明石市バス「明石団地」「朝霧駅」「松ヶ丘5丁目」「朝霧2丁目」行きの何れかに乗車(約5分)、「明高下」で下車し徒歩2分。

代表者:小久保宏 講師:濱崎正司

稽古:水 18:30-20:00

入会金:1,000円

月会費:1,000円(神戸支部会員は無料)



加古川道場(加古川武道館・合気道サークル)

所在地:加古川市加古川町大野1651-1
加古川市立武道館

☎(0794)25-7600

交通:JR加古川線日岡駅より徒歩、又は日岡バス停より徒歩

代表者:西島正憲 ☎(0794)22-4530

稽古:金 19:00-20:30

土 15:00-16:30

日 15:00-16:30

入会金:2,000円

月会費:2,000円

会員1名に付き家族無料、他支部会員は無料
但し、スポーツ保険1,100円/年(大人)
360円/年(子供)が全員に必要

